

教科等研究会（小学校音楽部会）

令和6年度 研究活動のまとめ

1 研究テーマ

「音楽のよさを感じ取り、生き生きと表現できる子どもの育成」
(仮説) 音楽を形づくっている要素に気づき、それらが生み出すよさや面白さなどを感じ取る活動を位置づければ、自分の思いや願いをもって、生き生きと表現できる子どもが育つであろう。

2 研究経過

第1回			第2回			第3回			第4回		
期日	人数	場所	期日	場所	研修会	期日	場所	授業者	期日	場所	授業者
6/7	15名	甲佐小	7/30	嘉島西小	歌唱指導の 実技研修	11/8	矢部小	森かな子 教諭	1/23	広安小	石川梨紗 講師

3 研究の概要

(1) 研究の内容

①本部会の研究テーマの考察

学習指導要領には、音楽科における「主体的・対話的で深い学び」を実現する際の留意事項として、「他者と協働しながら、音楽表現を生み出したり音楽を聴いてそのよさなどを見出したりするなど」と記されている。これは、改訂の基本的な考え方の一つであり、これまでも大切にされてきたことである。さらに、その文言に続く「思考、判断し、表現する一連の過程を大切に学習の充実を図ること」は、現行学習指導要領のポイントである。

研究テーマにある「音楽のよさを感じ取る」とは、音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形作っている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や文化と関連付けることである。学習指導要領の中でも、これらを「音楽的な見方・考え方」を働かせることと位置づけ、この見方・考え方を通して、音楽科の資質・能力を育成するものと明記されている。

さらに、「思いや願いをもって表現する」とは、思いや意図をもち、それを実現するために必要となる知識や技能を習得して、歌ったり演奏したりするということである。また、主体的に他者と協働する中で自分の考えをより深めたり再構築したりしながら豊かに表現することは、「生き生きと表現する」姿であると考え。音楽を特徴づけている要素や音楽の仕組みをもとにすることにより、音楽のよさや美しさを感じ取り、音楽への思いや願いをもって豊かに表現できる子どもの育成を目指した。

2030年の次期改訂に向けては、文部科学省の審議会において、いくつかの課題が示された。その中で、「社会的・職業的に自立した人間として、(中略)自ら問いを立ててその解決を目指し、他者と協働しながら新たな価値を生み出していくことが求められる。(中略)新しい時代に求められる資質・能力を確実に育成していくことや、そのために求められる学校の在り方を不断に探究する文化を形成していくことが、より一層重要になる。【教育課程企画特別部会の資料より抜粋】」と述べられている。この点においても、「課題解決に必要な見方・考え方を働かせ、自分の思いや願いをもち、仲間(他者)と協働して学びを深める授業」を実践することは、将来を見据えた研究として大きな価値があると考え。

②研究の実際

ア 夏季研修会

「歌唱指導について」

講師：荒木由美 先生（田迎小学校）

荒木由美先生を講師にお招きして、本会員が共通して悩む「歌唱指導」についてご教授いただいた。まず、歌唱指導の系統性について、6学年分の教科書を使いながら、指導内容のつながりを教えていただいた。上益城郡で使用される教科書は、その系統性が分かるよう、教科書にも指導書にも明記されており、授業中であっても、そのつながりを意識して授業できると分かった。実際に、教科書に書かれている「歌う姿勢」「歌声の出し方」を、会員全員で試し、一つ一つ納得しながら学びを深めることができた。

研修の後半では、出田敬三先生作曲「ユアハンドマイハート」を教材曲に、曲想のつかませ方、工夫の考え方、児童への問い返しなど、実際に歌いながら教えていただいた。

イ 研究授業① 第3学年「せんりつの重なりをかんじとろう 『歌おう 声高く』」

指導者 山都町立矢部小学校 森かな子 教諭

「声高く歌うためには、何に気を付けて歌えばいいか考えよう」というめあてを立て、班活動を中心に学習が展開された。タブレットを使い、自分たちの歌声を確かめ、「せんりつはもっと大きな声にしよう」「ランランランはハッキリ歌おう」と、班それぞれに工夫する姿が見られた。全体共有の場面では、その班の意見を全員で理解し、楽しそうに歌った。音楽を形づくる要素をもとに、班で思いや意図を共有しながら表現する姿は大変印象的であった。

ウ 研究授業② 第4学年「日本の音楽でつながろう」

指導者 益城町立広安小学校 石川 梨紗 講師

「日本らしいせんりつづくり」という課題に対し、児童がそれぞれのタブレットを用いて旋律づくりに取り組んだ。児童は、自分がつくった旋律を何度も聴き確かめながら、自分の思い描くテーマに合った旋律を創った。児童の思いや意図とつながった有意義な授業だった。

(2) 成果と課題

(成果)

- 実技研で歌唱指導の在り方や歌う楽しさを味わうことが出来た。児童にもその喜びを伝えたいという思いを、多くの会員が感想に寄せた。
- 授業研究会を行うにあたり、地区別に事前研をもち学習構想案を検討した上で授業に臨むことができた。
- 実践事例に挙げる森かな子教諭の授業では、本研究会と矢部小学校の校内研修の合同実施となった。そのため、例年以上の参加人数となり、より活発で幅広い意見が交わされた。
- それぞれの授業では、児童が自分なりの考えを、ペアや班で伝え合い、固定概念にとらわれない自由な発想で表現することができた。

(課題)

- 本研究会で学んだことを、各学校で広めるというところまでは、まだ至っていない学校が多い。

4 実践事例

(1) 授業の概要

第3学年「せんりつの重なりをかんじとろう 『歌おう 声高く』」

指導者 山都町立矢部小学校 森 かな子 教諭

(自評)

旋律の重なりに目を向けさせたかったが、歌い方に注目した考えが多く挙がり、うまく修正することができなかった。「元気に歌う」「振付をつけて歌う」といった、本時の課題解決に少しずれのある考えが出された場合、どう問い返してよいか悩んだ。

(意見・協議)

児童の考えようとする姿、お互いの意見をすり合わせようとする姿が大変素晴らしかった。また、タブレットの活用により、自分たちの歌声を事実としてしっかりと向き合うことができ、ICT活用の価値を考えることができた。旋律の重なりについては、導入時にもっと具体的に確認してから展開部へ入ると、児童もより視点の定まった協働的活動ができただろう。

(指導・助言 部長：谷川裕明 校長先生 矢部小学校：池部聖吾智 校長先生)

児童一人一人が明るく前向きに学習を進めていた。これまでの音楽科授業に対し、森教諭が真摯に向き合ってきたこと、学級経営を着実にやっていることの表れである。

題材における、学年の系統性、児童が身に付けるべき力、共通事項については、教科書にも指導書にも明記されている。題材や教材曲の研究をするにあたり、この点をしっかりとおさえ、授業に臨むとよい。

(2) 学習構想案 (抜粋)

題材名	せんりつの重なりをかんじとろう (教材：「かね」「歌おう 声高く」「メリーさんのひつじ」)		
題材の目標	<p>(1) 曲想及びその変化と、音色や旋律、音の重なりなどの音楽の構造や歌詞の内容との関わり、楽器の音色や響きと演奏の仕方との関わりについて気付くとともに、思いや意図に合った表現にするために必要な、互いの歌声や楽器の音、副次的な旋律、伴奏を聴いて、声や音を合わせて表現する技能を身に付ける。</p> <p>(2) 音色、旋律、音の重なり、反復などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように表現するかについて思いや意図をもったり、曲や演奏のよさなどを見いだしながら曲全体を味わって聴いたりする。</p> <p>(3) 旋律の重なりに興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や器楽、鑑賞の学習活動に取り組み、様々な音楽に見られる旋律の重なりに親しむ。</p>		
題材の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	<p>① 曲想及びその変化と、旋律や音の重なりなどの音楽の構造との関わりについて気付いている。</p> <p>② 曲想と旋律や音の重なりなどの音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付いている。</p> <p>③ 思いや意図に合った表現にするために必要な、互いの歌声や副次的な旋律、伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能を身に付けて歌っている。</p> <p>④ リコーダーの音色や響きと演奏の仕方との関わりについて気付いている。</p> <p>⑤ 思いや意図に合った表現をするために必要な、互いの楽器の音や副次的な旋律、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能を身に付けて演奏している。</p>	<p>① 音色、旋律、音の重なり、反復を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。</p> <p>② 旋律、強弱、音の重なり、反復を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさなどを見いだし、曲全体を味わって聴いている。</p> <p>③ 音色、旋律、音の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。</p>	<p>① 旋律の重なりに興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や器楽、鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>
題材終了時の児童の姿 (題材のゴールの姿・期待される姿)			
互いの歌声や旋律の重なるの関わりに関わり、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、音楽活動を楽しんでいる児童。			
題材を通した学習課題 (題材の中心的な学習課題)		本題材で働かせる見方・考え方	
せんりつの重なりを楽しみながら、きいたり歌ったりしよう。		旋律が重なり合う響きを感じながら、互いの歌声を聴き合って歌うこと。	

3 研究の視点

研究テーマとの関連・工夫
<p>(1) 音楽を形づくっている要素に気づくために</p> <ul style="list-style-type: none"> 既習歌唱教材と比べたり、歌ったり演奏したりすることで、旋律の特徴や変化を捉えることができるようにする。 常時活動として、音楽を形づくっている要素 (強弱記号やアーティキュレーション記号など) を符号かるたなどの活動を通して、楽しみながら習得できるようにする。 班や学級全体で友だちと考えを共有することで、音楽を形づくっている様々な要素に気づき、旋律の特徴をつかむことができるようにする。 <p>(2) 音楽を形づくっている要素が生み出す良さや面白さを感じるために</p> <ul style="list-style-type: none"> スタッカート記号がある場合とない場合の演奏の違いを聴き取る活動を通して、音楽を形づくっている要素がもつ良さに気付くことができるようにする。 強弱を逆にして歌ったり演奏したりすることで、音の上がり下がりや強弱記号の持つはたらきの関係性に気づきやすくする。

- (3) 自分の思いや願いをもって、生き生きと表現するために
- ・「いつ」「どこで」などの日常生活や生活経験と曲を結びつけやすい発問をし、曲に対する思いや願いを持てるようにする。
 - ・手や身体全体を使って旋律の特徴を表す活動を通して、曲に対する思いや考えを豊かに表現できるようにする。

4 児童の学びを支える手立て

- (1) 学びのUD化の視点
- ①楽譜を指で追ったり、旋律をイメージ図で表したりすることで視覚的に旋律の特徴を捉えやすくする。【視覚化】
 - ②班活動や全体発表で友だちと意見を共有する機会を設け、自力解決での気づきから、考えの深まりを感じることができるようになる。【共有化】
 - ③旋律の「違い」に着目させることで、旋律の特徴を考えやすくする。【焦点化】
- (2) 人権教育の視点
- ①【価値的・態度的側面】自他の価値を尊重しようとする意欲や態度
班活動や全体発表において、友だちの考えや発表を聞き合い、それぞれの違った聴き方を認め合うことができるようにする。
- (3) 主体的な学びにつながる ICT の効果的な活用
友だちの意見と比較しやすいように、タブレットと電子黒板を活用し、意見の交流を図る。

4 本時の学習（3／6）

(1) 目標 旋律の重なりについて考え、歌い方を工夫している。

(2) 展開

過程	時間	学習活動 (◇予想される児童の発言)	指導上の留意事項
導入	5分	1 前時の復習をする。 ◇もっときれいに歌いたい。 2 本時の課題をつかむ。 ・「歌おう声高く」を歌う。 ・「歌おう声高く」の意味について考える。 ◇声高く歌う。 ◇届くように歌う。	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の最後に歌った動画を視聴することで、本時の見通しをもつ。 ・旋律のリズムや音量のバランスについて考えるよう指導する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 【めあて】 声高く歌うためには、何に気を付けて歌えばよいか考えよう。 </div>			
展開	35分	3 歌い方を考える。 (1) 一人で考える。 ◇さっきよりきれいに歌いたい。 (2) グループで考える。 ◇踊りよりも、重なっているところをきれいに歌おう。  (3) グループで練習する。 ◇つられないように旋律ごとに集まって歌おう。 4 全体に工夫を発表し、歌う。 ◇主な旋律は大きく、「ランランラン」は小さく歌うといいな。 ◇「ランランラン」は、リズムよく歌うといい。 ◇動きながら歌うと楽しく歌える。 ◇「かね」と似ているから、かねの動きをした。 ◇重なり部分をきれいな声で歌うようにした。	<ul style="list-style-type: none"> ・楽譜に自分の考えを書き込むことができるように間隔を広くしたワークシートを提示する。 ・グループに音源を配付し、それぞれのグループのタイミングで練習できるようにする。 ・全体で歌う際は、歌いやすいように2つの旋律で教室を分け、歌うようにする。 ・発表後、各グループの良かったところを全体で歌い、工夫点を確認する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 【具体的評価規準】「思・判・表①」 音色、旋律、音の重なり、反復を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。 </div>			

終末	5分	5 全体で歌を歌う。	・それぞれのグループで考えた工夫をいかして歌うよう声掛けをする。
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 【まとめ】 2つのせんりつを聞き合い、歌うと声高く歌うことができる。 </div>	
		6 本時の学習をふりかえる。 ◇強弱に気を付けて歌うと、「歌おう声高く」を歌うことができた。 ◇音の重なりが「かね」と似ていて、きれいに歌うことができた。 ◇バラバラな感じがしたから一つにまとまって歌いたい。	・感想を全体で発表し、今日の学びを広げる。